

Weekly Report

小諸浅間ロータリークラブ



ロータリー:
変化をもたらす

- ◆例会日/週火曜日 12:30~13:30 ◆例会場/小諸市鶴巻 音羽
- ◆事務局/〒384-0025 長野県小諸市相生町 1-2-12 エイワンビル 2 階
- ◆会 長 / 小池平一郎 ◆副 会 長 / 湯本 敏晴
- ◆幹 事 / 小林 秋生 ◆ガバ広報・情報委員長 / 依田 晋一



2017~2018 年度

国際ロータリーのテーマ

NO. 1380 平成29年9月5日

◆点鐘	小池平一郎 会長
◆SAA	橋詰 希望 委員
◆ソング	君が代・誕生日の歌

◆誕生祝

矢島 英夫 会員

◆結婚祝

矢島 英夫 会員 泰子 夫人
前田 博志 会員 寿美子 夫人

【会長挨拶】 小池平一郎 会長

8月29日、第1379回例会は、関口孝裕東信第一グループガバナー補佐のガバナー訪問に対する事前訪問例会とその後のクラブ協議会、6名の各委員長さんご苦勞様でした。また、ありがとうございました。一年間よろしくお願ひ申し上げます。

9月3日、日曜日は八幡神社において八朔相撲が行われ、小林幹事と共に参加して参りました。この八朔相撲は元禄4年(1691年)時の小諸城主石川能登守の命により奉納相撲として始められ、今日まで310余年に亘り由緒ある伝統行事として受け継がれて来ました。

この日は市内の小学生28人が参加し、「大組」「中組」「小組」に分かれ、化粧まわし姿で市街を練り歩き、境内でおはらいを受けた後、土俵入りを奉納し、伝統の所作で力強い四股を披露しました。昨日の新聞(信濃毎日)に写真入りで、記事が掲載されておりました。

9月は「ロータリーの友」月間です。広報・情報委員会の皆様よろしくお願ひいたします。

9月2日(土)には第4回全国風穴サミットのシンポジウムが市民交流センターで開かれました。8月1日の例会で大西崇弘実行委員長が卓話をして下さいました。私は出席できませんでしたが、全国から大勢の関係者の方々が集まり、盛大に開催されたと伺いました。

来週9月12日の例会は関 邦則ガバナーの公式訪問ですので皆様よろしくお願ひ致します。

【幹事報告】 小林 秋生 幹事

1. 例会変更

千曲川RC	9月13日(水)	定刻受付なし
小諸RC	9月20日(水)	定刻受付あり

・来週12日はガバナー公式訪問です。

【本日の配布物】

週報1379号、ガバナー月信9月号、
ロータリーの友9月号

◆出席報告 中河 邦忠 委員長

会員数22名	出席義務者21名	免除者1名
本日	出席 18名	
	事前 MU 0名	85.71%
前々回(8/22)	MU 0名	72.73%

◆ラッキー賞

NO. 4 小林 秋生 君

◆ニコBOX 黒澤明男 委員長

小林 秋生君	ラッキー賞が当たりました。有難うございました。
前田 博志君	結婚祝ありがとう!
黒澤 明男君	
小池平一郎君	申し遅れましたが、8月15日に4人目の孫が生まれ、男の子で喜んでおります。
矢島 栄一君	来週は宅建協会の行事で欠席させていただきます。

次週のプログラム: 9月12日

「ガバナー公式訪問」

第2600地区 ガバナー 関 邦則 氏

次々週のプログラム: 9月19日

「健康長寿の秘訣」 矢島 英夫 会員



ロータリーの友あゆみを一部分ご案内します。

新しい雑誌の発行が決定

1952(昭和27)年4月、第60地区の大会が開催されました。同年7月に迎える新年度(1952-53年度)から、日本の地区は、東日本と西日本の2地区に分割されることに決定されましたので、主催者も参加者も、共に深い感慨をもって臨んだ特別な地区大会でした。この地区大会では、いくつかの問題が話し合われましたが、その一つに、日本の2地区で共通の雑誌を発行するとの決定がありました。これまで共に活動をしてきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有するための機関誌として、企画

されたのです。

第1回の準備会は大阪で、当時の星野行則ガバナーと露口四郎氏(共に大阪ロータリークラブ)が幹事役となって、東京、横浜、京都、大阪、神戸の各クラブの代表者が出席して開催されました。

「ロータリーの友」と命名

新しい雑誌について本格的にいろいろなことが決められたのは、同年8月16日、岐阜市の長良川河畔にあった大竹旅館での会合においてです。1953(昭和28)年1月から、毎月発行すること、価格を50円とするが、広告を取って100円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすることなどが決定されました。

また、この会合では、新しい雑誌を縦書きにするか横書きにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行ったところ、2対1の割合で、横書きが採用されることになりました。戦後10年もたっていなかったという時代背景を考えると、この結果は、当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることのできるエピソードです。

岐阜での会合で、広告を取ることが決定したものの、当初は発行部数が3,300部にすぎなかったこと、また、戦後の混乱が少し落ち着いたというものの、まだまだ経済的には厳しかったこともあり、広告のスポンサーを見つけることは容易なことではありませんでしたが、創刊に携わったロータリアン自らが走り回り、苦勞して広告を取ったという逸話が残っています。

創刊号は富士山の表紙です。この表紙、1月号から6月号まで、絵柄は全く同じものでした。北斎の「凱風快晴」という題の作品です。8月号から9月号は、広重の「舞子の濱」という作品で、表紙の写真や絵が毎月替わるようになったのは、創刊翌年の4月号からです。毎月同じ絵柄の表紙とはいえないものの、それぞれの色が随分違っているのは、デザインでしょうか、当時、カラー印刷の技術が進んでいなかったためでしょうか。

表紙が2つに

最初、横書きでスタートした『ロータリーの友』ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合の悪い欄が始まり、これらを縦書きで入れることになりました。1972(昭和47)年1月号から、縦書き、横書きを分けて、それぞれに表紙をつけました。左に開けると横書き、右に開くと縦書きという形の雑誌になりました。両面が表紙になった最初の号の表紙は陣羽織で、横書きは前から見たところ、縦書きは後ろから見たところ、というように、両面表紙の特徴を生かした面白いものになっています。

国際ロータリー公式地域雑誌に

1977年、標準ロータリークラブ定款第10条(現14条)の改定に伴い、公式地域雑誌(現ロータリー地域雑誌)の規定が設けられました。これにより、ロータリアンは、国際ロータリー(RI)の機関誌『The Rotarian』だけでなく、RIが指定した公式地域雑誌を購読することで会員としての義務を果たすことができるようになりました。

『ロータリーの友』は、1979年7月号から1年間の試験期間を経て、1980年7月号からRI公式地域雑誌になりました。公式地域雑誌の要件はいろいろと定められており、また、時代とともに多少変化をしています

カラフルに、ビジュアルに

2003年1月に創刊50周年を迎えるに当たり、これまでの良い伝統は継続しながら、新しい50年のスタートにふさわしい新鮮な『ロータリーの友』にするにはどのようにすればいいのか、2001年秋から検討に入り、2002年7月号から誌面を一新しました。

サイズをB5判(天地256ミリ×左右182ミリ)からA4変型判(天地280ミリ×左右210ミリ)に変更。カラー写真のページを巻頭にもってくるなどして、親しみやすい『ロータリーの友』を目指しました。この時、用紙もカラー写真がきれいに出るように、それまでより白い紙に替えました(2006年7月号からは、さらに白い紙に変更)。

このサイズの変更と合わせて、事務所内でのコンピューター編集に切り替えました。このことによって、それまでより自由な誌面づくりができるようになり、またコスト削減も実現しました。さらに2016年7月号からは、サイズをA4判(天地297ミリ×左右210ミリ)に変更しました。

「ロータリー地域雑誌」の要件の一つに『The Rotarian』から指定された記事を掲載しなければならないという項目があります。写真を郵送していた頃には同時掲載は不可能でしたが、IT技術の進歩に伴い、2004年1月号からは、これらの指定記事が『The Rotarian』と同じ月に掲載できるようになりました。